

水平線【院長コラム 2026年5月】

ミカンの花

和歌山市内で毎朝歩く道には所々に桜の木があり、また歩道沿いにハナミズキが植えられている。4月初旬から中旬にかけては、桜が咲き散る景色を見ながらハナミズキの花が開花するのを楽しめる。桜は全体に花開く木の姿が華やかさを感じさせるが、ハナミズキの花は一輪一輪すべてが天を向くという力強さに驚かされる。

そしてちょうどハナミズキの花が散りはじめる頃に有田市内を歩くと、甘酸っぱい柑橘系の香りが漂っているのに気付く。それはわずかにミント系の香りが混じっているようにも思う。道ばたのミカン畑に咲く白い花に顔を近づけると、そこから強い匂いを発していて、これがミカンの花の匂いなのだと知った。ミカンの木は、有田の里山そして街中にも植わっている。だから有田市内のどこを歩いてもこの甘酸っぱい、爽やかな香りを楽しむことができるのだということを知った。

和歌山は梅も柿もミカンも日本一なので、早春梅の薄桃色の花、秋の柿の赤、晩秋ミカンの黄金色という、視覚で季節を感じることに慣れていた。しかしミカンはその花の匂いでも季節を感じられる。この土地に来なければ知ることのなかった新しい感覚だ。

それから10日も経つといつの間にか香りが薄くなり、ミカンの花を見るとほとんど終わりを迎えている。匂いを発する期間の短さが、季節の変化をより強く感じさせているようにも思う。